

花とあかり

小川未明

青空文庫

母^{はは}ちようは子^こちようにむかつて、

「日^ひが山^{やま}に入り^{はい}かけたら、お家^{うち}へ帰^{かえ}つてこなければいけません。」
とおしえました。

子^こちようは、あちらの花^{はな}畑^{ばたけ}へとんでいきました。赤^{あか}い花^{はな}や青^{あお}い花^{はな}や、白^{しろ}い、いい香^{にお}いのする花^{はな}がたくさん咲^さいていました。

「これはみごとだ、うれしいな。」といって、花^{はな}から花^{はな}へとびまわって、おいしいみつをすっていました。そのうちに日^ひが山^{やま}へはいりかけました。けれど、子^こちようは、むちゆうになつて花^{はな}をとびまわっていました。

「やあ、暗^{くら}くなった。」と、子^こちようはあたまをあげますと、こ

れはまたどうしたことでしょう。あちらにも、こちらにも、うつくしい水みずのたれそうなみどり色の花はなや、青い花あおはなが咲さいていました。「なんの花はなかしらん。いつてみてから、お家うちへかえりましょう。」と、子こちようはとんでいきました。きれいな花はなに見みえたのは、でんとうのあかりでした。外そとへ出でようとすると、ガラス戸どにつきあたりました。

「やあ、しまった。」と、子こちようは気きをもみました。

「きれいなちようちようだなあ。」

「まあ、きれいなちようちようなこと。」

そのとき、こういう子こども供たちのこえがきこえました。

「僕ぼくつかまえて、ピンでとめておこうかな。」

「正ちゃんおよしなさいね。かわいそうだから、にがしておやり

」。

「僕、お兄さんのように、ひょうほんをつくるのだ。」と行って、
 おとうとじょう
 弟の正ちゃんは、窓の下にイスを引きずってきました。

「ねえ、正ちゃん、にがしておやり。」と、光子さんはなみだぐ
 みました。

子ちようはにげようと思つて、はばたきをしました。

「わたし、お父さんからもらった小刀をあげるから、にがしてお
 やり。」と、光子さんはいいました。

「ほんとうにくれる。じゃ、にがしてやるよ。」
 子ちようは、あやういところをたすかりました。

お家^{うち}へかえつて、そのことを、母^{はは}ちようにはなしました。母^{はは}ちようは、かわいい子^こちようがたすけられたのをよろこびました。そうして、母^{はは}ちようは、

「かんしんなお嬢^{じよう}さんの美^{うつく}しいお目^めがますます美^{うつく}しくなりますよ
うに。」といつて、いのりました。

「あのやさしいお嬢^{じよう}さんのかみのけがもつと長^{なが}くたくさんになります
ますように。」と、子^こちようもいのりました。

すると、この話^{はなし}をきいた花^{はな}たちまでが、かんしんして、いつし
よにいのりました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第6刷発行

※表題は底本では、「花《はな》とあかり」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：仙酔ゑびす

2012年2月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp/) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

花とあかり

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>